

第11回 協働のまちづくり推進特別委員会記録

令和5年4月12日（水）

開議 10時 01分

閉議 11時 44分

全員協議会室

【委員】 西田委員長、上野副委員長

村木委員、村武委員、柳楽委員、岡本委員、芦谷委員、川神委員

【議長・委員外議員】

【事務局】 松井次長、小寺書記

議 題

1 中間報告（案）について

2 今後の委員会の方向性について

3 その他

【別紙会議録のとおり】

【会議録】

[10 時 01 分 開議]

○西田委員長

ただいまから第11回協働のまちづくり推進特別委員会を開会する。出席委員は7名で定足数に達しているが、岡本委員から欠席の連絡が来ている。

1 中間報告（案）について

○西田委員長

前回の委員会において、6月定例会議に中間報告をすることが決定した。これまでの活動を時系列に並べた資料について、事務局から説明をお願いします。

○小寺書記

（ 以下、資料を基に説明 ）

○西田委員長

今年度から担当書記が小寺書記に変わった。改めてよろしくお願いします。

○小寺書記

今配信した資料は、議員定数等議会改革推進特別委員会が中間報告を行った内容である。このように、開催日時と議題を一つずつ報告する形をイメージしている。

改選前にあった中山間地域振興特別委員会と自治区制度等行財政改革推進特別委員会も中間報告をしているのだが、提言をそれぞれされているので、その内容をまとめて中間報告としている。当特別委員会はまだ提言等はしていないので、議員定数等議会改革推進特別委員会のような形になると思っている。

○西田委員長

今示しているように、これまでの取組を時系列で文章的にまとめて中間報告しようと思っている。何か意見や指摘があれば伺う。

○柳楽委員

過去の委員会において多かった意見などは全く入れずに、時系列のみの報告にとどめるのは少し寂しい気もしたのだが。

○西田委員長

柳楽委員がおっしゃるように、過程の中で特に多かった意見や、提言に結びつきそうな意見もつけ加えれば、もっと良い中間報告になると思っている。

○川神委員

資料提供ならこの形でよいが、発表が伴うので文章化したほうがよい。今まで出た話も踏まえて。また、現在考えられる最低限の課題も添えたほうがよい。

○小寺書記

委員会内でどのような話が出たかは補足して、正副委員長と事務局とで調整したものをまた皆に見てもらいたい。

○西田委員長

これまでも各委員に意見をまとめてもらったりしている。それも報告に取り入れていきたい。

○芦谷委員

今までの特別委員会の報告書を見ると、総論になっている。協働のまちづくりは市が条例をつくっていて、この委員会でも調査研究が不十分だとか、委員同士の意見が合わないといった話が出たが、もっと踏み込んで具体的に中間報告に示したほうがよい。総論だと物足りない。

○西田委員長

今までも委員から踏み込んだ意見をもらっている。提言には至らないが中間報告にて、少し踏み込んだ意見も盛り込んでいきたい。

○小寺書記

中山間地域振興特別委員会や、自治区制度等行財政改革推進特別委員会は、提言の内容に関する中間報告なので項目立てでの報告ができていたが、当委員会はまだそこに至っていないので、開催日時と協議内容に関する中間報告になると思った。

中間報告と提言とは一旦分けて考えたほうが良い気がしたのだが、皆はどう思うか。

○芦谷委員

中間報告でとどめるならそれでも良いが、最終報告はあるか、それはいつか。

○小寺書記

この委員会を終える際には、しかるべきタイミングで最終報告をすることになると思っている。

○西田委員長

6月定例会議で中間報告をすると決めたところだが、正副委員長のイメージとしては11月に委員改選があり、このメンバーが入れ替わる可能性がある。これまでも提言に結びつくような内容があったので、6月定例会議の中間報告でワンクッション置きつつ、執行部に提言できそうな意見をもっと具体的にまとめ、9月定例会議には提言するという形である。

その先々にこの委員会がどうなるかは、皆の総意による。継続するかどうかも分からないので、9月定例会議では一旦提言したいと正副委員長は考えている。踏み込んだ意見を少し加えながら、もう一段階上の提言に持っていきたい。他に意見は。

(「なし」という声あり)

中間報告については時系列に出た意見等々もまとめたい。よろしいか。

(「異議なし」という声あり)

2 今後の委員会の方向性について

○西田委員長

皆からもらった意見を表にまとめている。事務局から説明をお願いする。

○小寺書記

(以下、資料を基に説明)

○西田委員長

資料にある発言に加えて、新しい意見もあるかもしれないので再度伺いたい。

○上野副委員長

私の意見が漏れていたため、口頭で言う。旭は早くからまちづくり推進委員会があり、公民館もいろいろ活動ができていた中でこのような形になったが、それも解消しつつある。また、活動してなかった人がまちづくりセンターと一緒にあって、活発な活動をする地域が新たにできた。それをもっと参考にするべきではと思う。農業について東京の新聞記者が取材に来るような盛り上がった地域もできた。良いところは褒めて参考にして、こちらも勉強していかねばならない。

○西田委員長

資料に掲載のない考えがあれば伺いたい。

○川神委員

協働のまちづくりの具体的な進め方について、担当課としてもまだまだ暗中模索ではないか。議会としてどのような視点で協働のまちづくりに臨むか、それが当委員会の肝だと思っている。執行部と議会との風通しをさらに良くしていく。意見交換会を2回やったが本当は頻繁にやって課題について共通認識を持つべきなのだろう。

5月にある地域井戸端会は各地域のまちづくりセンターを中心に28か所、3人1組で行くことになった。自立したまちづくりの核を担うまちづくりセンターに行き行って意見聴取し、議会が何をできるか具体的に考えなければと思う。

人材育成が大事である。どうすればまちづくりの中心になるリーダーをつくることができるか、その辺の仕組みは行政よりむしろ議会のほうが得意な気がする。まちづくりセンターを中心とした協働のまちづくりの精神をどうするか。若者や子どもが参加する仕掛けをどうやるか、リーダーをつくる仕掛けをどうするかを、行政とタッグを組みつつ進めることは避けて通れない。まちづくりセンターをグレードアップすること、後継者リーダーをつくるプログラムをつくることは避けて通れない。議会がどういう一面を見るべきか再度考えないといけない。

○西田委員長

これまでの意見の中でも、地域政策、総務、福祉、環境など、全て関わるのがこの特別委員会なので、難しい面もある。浜田市全域の人材育成といった話にするとすごく広がる。まちづくり組織、まちづくりセンター、地域協議会といったところにある程度限定してやっていったらという意見もある。

他の特別委員会では何本か柱を立てて、それに基づいて調査研究されて提言に結びつけたが、この特別委員会ではその柱も難しい。エリアや団体を限定すべきか、それとも全体的に視野を広げるのか。難しさを感じながらやっている。他に。

○村武委員

今の段階では具体策を出すのは難しいと書いた。しかし9月には今のメンバーで何かしら出してはとの意見もあったので、いつまでも難しいと言うわけにいかない。

まちづくり組織の話はまだほとんど聞けていないので、もう少し聞いてみたい。ま

ちづくり組織とセンターが連携して進めているという話があったが、うまく行っているところとそうでないところの話をもう少し聞きたい。

まちづくりセンター中心にグレードアップすることを考えたらどうかと言われたが、私もそう感じる。公民館は社会教育を大切にしていた。研修も充実していた。地域の課題を洗い出してまちづくりを進めていくということはできていた。しかし、まちづくりセンターになってから、所管も替わり、職員への指導や研修が減ってきているのではと感じる。若者や少子化対策などを進めていくためには、まちづくりセンター職員が地域課題を発見し、地域住民を巻き込んで改善を図ることが必要だと思う。まちづくりセンターを強化することに視点を置いてやっては。

○柳楽委員

行政と関連しているまちづくりセンター、コーディネーターが、協働のまちづくりを進めるにはどういった動きが必要なのか。行政と関わる部分に対しての要望なり提言なりと、住民の協働のまちづくりに対する意識を高め、どのように取り組んでいくことが必要か。住民側がどのように動けばよいのか、行政は住民に対してどのような働きかけが必要なのか、というところでまとめていくのも一つのやり方かと感じた。

○西田委員長

地域協議会などもか。

○柳楽委員

まちづくり組織は住民側だと思っているので、そこは住民側でよいかと思う。地域協議会はあくまでも各まちづくり組織や自治会などから代表の方が出ている組織なので、まちづくりの組織などがそこに含まれていると捉えている。

○西田委員長

住民自治組織や地域協議会は住民側から上がってきた組織ということ。思いがかみ合うような働き掛けができれば良いという意見と受け取った。

○村木委員

地縁と志縁という二つの組織があろうかと思う。コミュニティのあり方が地域によって違うので、ある程度統一すべきか、いま一度考える必要がある。

執行部との継続的な意見交換。例えば福祉関係、産業関係など、それぞれが協働、まちづくりを意識する必要性から見ると、決して地域政策部のみではない。

個人的には、社会教育の手法で生涯学習の理念を持つことが大事である。もともと協働のまちづくりの定義にはそのことをうたっているもので、追及していきたい。

○芦谷委員

投票率が下がっている。市政に対する住民の関心が薄い。住民側が地域づくりや市政、政治に関心を持って参画することが大事だと思う。共助は住民参加を促してまとめていく。その共助がうまくいかないと言われるが、何百年とやってきた地域文化もある。今より良くするために、地域に任せてしっかり若者や女性も参加してもらおう。大事なものは行政の公助。これが縦割りである。なるべく分かりやすく、ストレートに地域を束ねることができるように仕向けることが必要。

地域コーディネーターがいろいろ質問しても、なかなか明確な考え方を出さない。センター職員は疲弊しておられる。もう少し分かりやすくまちづくりセンターを機能させるためには、行政が縦割りを排して地域支援する形になればもっと変わる。

○西田委員長

一定まではまとめられるが、なかなか全てをまとめづらい気もする。自治会など一定単位で地域課題を出し、それを皆でどう解決できるか、地域の一定の組織内で話し合っ、それを地域計画書に結びつけて出す。その地域計画書を作るのに地域担当制の行政職員が少し応援する。そのように地域課題を地域で解決する形をつくり、それが全地域に広がれば、行政はその意見を基に予算配分なりができる。そういう形が望ましいというイメージはあるが、現状では地域の温度差や規模の問題があって簡単にいかない。しかし住民側からいろいろな計画が出されることが望ましい気もする。そういったことが提言にどう結び付けられるか。

これまでの意見を聞いていると、提言に結び付けられなくはないと思う。9月定例会議で提言したい気持ちがあるので、皆に賛同いただければそうしたい。定期的に執行部に意見を申し上げる、申し送る、あるいは提言するといったことをやっていくのが当委員会である。しかしあまり重く考えずとも、気付いた時点で、もう少し楽なイメージで持っていくこともあるような気もする。いろいろあるが9月定例会議に提言に持っていきたいというイメージは皆で共有したい。事務局から何かあるか。

○小寺書記

9月定例会議に向けた提言以外に、調査研究など必要なことがあれば、今後の委員会の取組として考えていけたらと思うがいかがか。

○西田委員長

前回の委員会で私も思ったままを言わせてもらった。9月定例会議に提言をする過程において、委員会の進め方などに関する意見や提案があれば伺う。

○村武委員

例えば住民側から意見が出せるようにとか、そういう課題は執行部も感じているのでは。ただ、それをどうしたらよいか分からなくて皆悩んでいる。そこをどうしたら良いか、私たちは伝えていかないといけないのでは。もう少し我々委員も学ぶ必要があるのではと思った。

○西田委員長

今の意見の中に、職員を中心にまちづくりセンターをグレードアップさせるというものがあった。グレードアップのためにはどうしたらよいか。参考になる方のご意見を伺うということもあるかもしれない。まちづくりセンターのグレードアップについてが、提言のネタになりそうな気がしている。皆の意見も大体はそこに共通点があるように思う。

○村木委員

昨年の4月12日に大学の先生に話を聞いた。公民館当時にも浜田市にお越しになったことがある。専門分野は生涯学習と公民連携である。この方は市や県の職員も経験

しておられ、すごく勉強になると思う。この方の話を聞くこと提案する。

○西田委員長

勉強会も必要だという意見と受け取った。今からこの委員会が進む方向性の一つは、研修会を開いて先進的な考えを学ぶこと。執行部との継続的な意見交換も大事という意見も複数あったように思う。前回執行部との意見交換をした折も、執行部側にも思いや意見があるので、我々議会とのすり合わせが大事である。これも定期的に必要と思う。

○柳楽委員

地域を維持していくためには、若者がまちづくりに関わっていける体制にならないと難しい。なぜ若者が地域のいろいろなことに出にくい状況なのか、関わりにくい状況なのかを知るのは大事だと思う。意見交換で具体的な話が聞けるかどうか難しいところだろうが、そういう機会があれば良い。

○西田委員長

若者層との意見交換。若者が地域に参画するに当たっての課題、問題点について直接意見交換する。

○芦谷委員

行政連絡員のあり様や、旧町村単位での言い回しの違い、連合自治会の有無、地域協議会のあり様など、こういった仕組み部分がどうなっているのか。今までどおり皆違って皆良いで良いのか。浜田市全域で名前や仕組みを統一する必要はないのか。

○西田委員長

旧組織名で来ているところも多々ある。組織の名前も規模も違ったまま来ている。そこを統一させる。また、組織があまりに多くて、同じような役が重複しているところもある。足りない地域もある。そういうことを含めたらもっと改善点はあるだろう。

○川神委員

同感である。合併して16年。町内会、自治会、連合自治会、まちづくり委員会、地域福祉会、とにかく様々な組織が入り乱れている。もっと早い時期に整理するべきだったと思う。最低限の共通認識はあるべきである。大人が混乱しているのだから若者は余計に入りにくい。どの地域に行っても一つの名称で同じ組織がイメージできるよう、すり合わせをしておく必要がある。大体、町内会長と行政連絡員の立ち位置がよく分からない。自治会長と町内会長はどういう関係か。そのような初歩的な話も皆分かっていない。整理はすべきである。

○西田委員長

若者は自治組織の中身すら分からない現状があるので、整理は大事だと思う。そういう方向性は提言にもなると思う。提言に結び付けるためにどういう作業をしていけば良いのか、改めて意見交換をして方向性をまとめていきたい。

提言に結び付く課題の協議、若者との意見交換、講師による勉強会、まちづくりセンターのグレードアップの手法、今日は大きく四つの意見というか今後の進め方の方

向性が出た。何を優先、あるいは同時進行するか、意見を伺いたい。最終的には9月定例会議に提言に結び付けたい。過程において優先すべきものを聞きたい。

○村木委員

研修は相手もあることなので早目に着手が良い。また、地域のコミュニティのあり方について疑問を持っているので、これについても早目が良い。私の手元に資料があるので、地域ごとの名称や役割などの現状はまとめられると思う。

○村武委員

勉強会は早目に進めてほしい。勉強会をすることでまちづくりセンターのグレードアップや、若者の参画問題についてヒントが得られるのでは。

地域の仕組みの整理はできればと思うが、それが今までされてこなかった理由もあると思うので、執行部にも聞いてみたい。地域にとってやりやすい方法があるならそれで良いが、若者が参画しにくいなど、住民が分かりにくいと感じているなら、そこは整理すべき。

○柳楽委員

組織について、まちづくり組織の中にどういったところが入ってくるのかは執行部が資料を持っている。以前、まちづくりセンター職員が教えてくれたことがあるので、一定程度のものはあるはず。確認してみるべき。自治会やまちづくり組織が、どういうものであるべきなのかはきちんと皆が分かりやすい形にしておかないといけない。一つ微妙だと思っているのが、町内会や行政区の呼び方。地域の方がこれまで呼び続けていた名前を変えることについて、地域の思いは大事なのかと思う。私もかつて、統一していると分かりやすいと思っていたが、地域の方が把握していれば問題ないという意見に落ち着いた。住民の思いに寄り添うことも大事だと思う。

ファンタスなど若者会議に満遍なくいろいろな地域の方が含まれているなら、そういった方との意見交換も一つの手段かと思う。

○芦谷委員

例えば行政が地区の協働組織の会議をする際、名称がそれぞれ違うのはよろしくない。合併しているのだから名前ぐらいは統一して考え方を整理しないと。行政が地域の共同体にコミットしないから、名称が違っていても困らないのだろう。

○上野副委員長

旧郡部は高齢化しているので、名称を変えると公民館がまちづくりセンターになった以上に問題が起こりそうな気がする。人数が少ない地域は役を掛け持ちしているが、一つの役でそれぞれ順番が決まっているから何とか回っているような状況で、ここで何かを変えたら大変なことになるのでは。いずれにせよ各地域の組織名などの資料を出してもらい、皆で検討したらどうか。

○西田委員長

行政区などもう少し整理が必要との意見が出た。

○小寺書記

もしかしたら執行部がまとめているかもしれないので、まずはそれを当たってみ

る。なければ改めて村木委員と相談してもよいか。

○村木委員

資料はもらった記憶もある。この特別委員会でもらった気がするのだが。

○西田委員長

過去に出してもらっていたならそれをそのまま。それに変化があるなら新しいものを執行部に確認を。もしその資料に不足があるなら村木委員にも協力してほしい。

○芦谷委員

食生活改善推進委員、福祉委員、環境清掃指導員、こういったものも入るのか。

○西田委員長

暫時休憩する。

[11時 21分 休憩]

[11時 38分 再開]

○西田委員長

委員会を再開する。いろいろな意見の中で出てきた柱から、優先するのは勉強会。講師先生がご多忙な方なので優先したい。もしオンラインになれば当委員会のみ、もし来ていただけるなら委員外議員も聴講可能とさせてほしい。予算などは追って調べてもらいたい。

もう1点は、行政区のこともあったし、地域組織のアンバランスな部分を整理するための資料。最新のものを次回提供してもらい、この委員会で話し合いたい。

若者との意見交換については、委員会でいろいろ出掛けていくのも手だが、地域井戸端会が5月に開催される予定で各地に出掛ける機会もあるので、そこで話を聞くことも意識してほしい。

執行部との意見交換も必要に応じて随時やっていきたい。

このような形で本日はまとめたいが、他に何かあるか。

○村木委員

若者の意見は確かに大事である。若者に話を聞くと忙しいと返ってくるが、抱えている用事の一つには志縁が含まれている。PTA、子ども会、スポ少保護者会など、違った形でまちづくりに関わっていることもある。地縁だけでなく志縁による組織も大事にしていかないといけない。

○西田委員長

若い方々の組織もあることは理解しつつ、意見を伺う機会もできれば持ちたい。以上で議題2を終了してよいか。

(「はい」という声あり)

3 その他

○西田委員長

委員から何かあるか。事務局からは。

○小寺書記

次の委員会日程は勉強会の調整をした上で、皆の日程を調整する形でよろしいか。

(「はい」という声あり)

○西田委員長

他にはないようなので、以上で本日の特別委員会を終了する。

[11 時 44 分 閉議]

浜田市議会委員会条例第65条の規定により、ここに委員会記録を作成する。

協働のまちづくり推進特別委員会委員長 西 田 清 久